

医療福祉のプロがすすめる 人生100年時代の「健康」を 問い直す1000冊

結城 俊也編

A5・300頁 定価13,200円(本体12,000円+税10%) ISBN978-4-8169-2873-4 2021年4月刊行

- 「医療福祉のプロがすすめるシリーズ」第2弾。日本人の8割が病院で亡くなるという現代、そもそも“健康”とは何かを問い直す契機にしてもらうためのレファレンスツールです。
- 「健康の基盤としての身体」「健康格差は存在するか」「老いとは何か」「進化からみた病気」「安楽死・尊厳死」「医療危機・医療崩壊」など具体的な項目について専門家が解説、関連書籍1,153点をセレクトして紹介します。
- 「著者名索引」「書名索引」付き。

【編者プロフィール】

結城 俊也 ゆうき・としや

23年間にわたり千葉中央メディカルセンターに勤務。現在、都内の障害者施設に勤務しながら、図書館等において医療健康講座を開催している。専門理学療法士(神経)、介護支援専門員、博士(医療福祉学)。

著書に『医療福祉のプロがすすめる 孤独・社会的孤立・つながりを考える1000冊』(日外アソシエーツ、2020)など。

共編に『リハビリのプロがすすめる 健康寿命を延ばす1000冊』(日外アソシエーツ、2018)などがある。

【見出し例】

第1章 健康について問いなおす

健康とは何か：健康不安社会／健康至上主義を問う
 健康の基盤としての身体：身体論／社会学／身体観の変遷
 運動・スポーツと健康
 健康の心理学
 健康行動を引き出す
 自分の健康をコントロールするーヘルスプロモーション
 健康情報をやり取りするーヘルスコミュニケーション
 健康を守るための医者とのつき合い方
 健康寿命を延ばす
 健康格差は存在するか：地域格差／医師不足／つながり
 健康経営が企業を伸ばす
 タバコと健康
 清潔と健康の歴史
 トピック：健康を守る免疫学／医学系・一般、良眠が健康のカギ

第2章 病気・老い・死について問いなおす

病いとは何かー医療人類学
 政治や社会の力学と病気
 進化から見た病気
 日本における病いと健康法の歴史
 病・老い・死に向き合う
 医者が病気になったとき
 死の哲学
 死生観：日本人の死生観／私の死生観
 死の迎え方：後悔しないために／死が怖い人へ看取りという営み
 老化と死のサイエンス
 トピック：感染症の歴史／総合・パンデミック、インフルエンザ、ペスト、コレラ、小説・ノンフィクション

第3章 医学・医療を問いなおす

臨床哲学
 臨床倫理・医療倫理：看護倫理／介護倫理／認知症ケア／意思決定支援
 生命倫理：総論／生殖・遺伝子操作・人間改造
 安楽死・尊厳死
 優生思想：総論／ナチス／相模原殺傷事件
 医療の社会学：総論／医療化・その他
 物語と医療ーナラティブ・ベイスト・メディスン
 公衆の生を守る：総論・公衆衛生学／各国の公衆衛生史
 トピック：情報リテラシー／科学リテラシー、ヘルスリテラシー、疑似科学の見抜き方
 リスクと向き合う：安全と安心／リスクコミュニケーション
 医療と経済・政策：医療経済学／日本医療の現状／国際比較
 医療危機・医療崩壊
 医学の歴史：総合／日本／疾患の歴史

2021.3

お問い合わせは… **日外アソシエーツ 営業局**

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	医療福祉のプロがすすめる 人生100年時代の「健康」を問い直す1000冊	冊
		定価13,200円(本体12,000円+税10%) ISBN978-4-8169-2873-4	
		 9784816928734	

健康とは何か/健康不安社会

【解説】健康ブームという言葉がはやりだして久しい。毎日メディアからはこれでもかというくらい健康食品、健康グッズなどの情報が流れてくる。ではいったい健康とは何か。改めて問われると答えに窮する人も少なくないだろう。健康とはそれだけ曖昧なものと言えるのかもしれない。

例えば花粉症の人で考えてみよう。ある人は花粉症でつらい思いをしているので、自分は健康ではないと考えるのかもしれない。また別の人は、たとえ花粉症であってもやりたいことが行えているので健康だとする場合もあるだろう。つまり疾患の有無だけで健康を定義するのはいささか無理がありそうだ。一点の曇りもない健康礼賛への傾倒はどこか窮屈である。この機会に「健康とは何か」について考えてみてはいかがだろうか。

おすすめ書籍

『病いと健康のあいだ』 立川昭二著 新潮社 1991.5 225p 20cm (新潮選書) 900円 ①4-10-600398-8

【目次】なぜ、病いを語るのか、元気と病気の間、医療、この測れないもの、「文化」としての病院、今生は病む生なりき—医療人類学から、えやみの神や花鎮—医療民俗学から、生と死のTOPOLOGY、医と病いのGOODS、痛みを知る、痛みのことば、養生からシェイプアップへ、豊かな社会の見えない病い、病むこと生きること、歴史からみる現代医療、時代の蹻音、病いの物音

【内容】自分のからだの具合を挨拶がわりに口にする世界に稀な心性。病いを飼い馴らし、社会生活にとり込む術に長けた日本人の健康観を、過去に現代に探求する。

『「健康」という病』

①4-08-720040-X

【目次】第1章 半健康における幻想、第4章 は効いているか、第7

【内容】私たち現代人はどうか。テレビや新聞ればいけないというとも変わったこと基準値や正常値は、で意味のあるものか

『健康論の誘惑』 佐藤

研究叢書 1) 380

【目次】第1章 不健康な広告における健康言れ方—健康言説の構

健康経営が企業を伸ばす

【解説】2019年、東京大学と日本臓器製薬は、腰痛による経済損失は年間3兆円に上るとの試算を発表した。腰痛になると業務効率が下がるだけでなく、不活動になるため他の病気のリスクも高まるという*1。このように従業員の健康が損なわれると、企業経営に甚大な被害を及ぼしかねない。そこで企業が従業員の健康に配慮することで、生産性の向上を目指す経営手法に注目が集まっている。これは「健康経営」と呼ばれ、今後企業が生き残るための必須課題と言えるだろう。

健康経営が注目される背景にはいくつかの理由がある。まずは少子高齢化による労働力不足だ。その不足を高齢労働者で補填する場合、企業が従業員の健康に配慮しながら働いてもらうことが重要になる。また長時間労働などによる過剰なストレスも問題だ。ストレスからくる睡眠不足も重なれば、生産性が低下するのは明らかだろう。もはや従業員の健康は経営上の資産である。健康経営、今後の展開を注視していきたい。

*1 <https://www.asahi.com/articles/ASMBB5Q7GMBBPLBJ00D.html>

おすすめ書籍

『この1冊ですべてがわかる！ 健康経営実務必携』 稲田耕平、阿藤通明、坂野祐輔共著 日本法令 2017.12 274p 21cm 2500円 ①978-4-539-72569-6

【目次】第1章 中小企業こそ健康経営のメリットが大きい！、第2章 明日からできる健康経営の実践！、第3章 健康経営への取組みを支えるしくみ、第4章 健康経営の実践に関わる認定等、第5章 今後の健康経営の可能性、巻末資料 外部リソース等の紹介

【内容】健康経営に関するQ&A、取組み事例、規定例を収録！実務経営豊富な社労士が基礎知識やメリットを解説。企業アピールにつながる認定の取得についてアドバイス！

『課題ごとに解決！ 健康経営マニュアル』 亀田高志著 日本法令 2017.12 21cm 2500円 ①978-4-539-72596-2

既刊

医療福祉のプロがすすめる 孤独・社会的孤立・つながりを考える1000冊 結城 俊也編

A5・300頁 定価13,200円(本体12,000円+税10%) ISBN978-4-8169-2854-3 2020.11刊

リハビリのプロがすすめる 健康寿命を延ばす1000冊 結城 俊也・坂本 宗樹・鈴木 光司・二宮 秀樹 共編

A5・350頁 定価10,175円(本体9,250円+税10%) ISBN978-4-8169-2706-5 2018.2刊